

I F A レフェリートレセン 2018

レフェリートレセンの目的

茨城県内の1級審判員が中心となり、県内審判員への技術指導・資質向上・情報伝達を中心とした活動。県内の審判員には国際経験を持つ審判員など日本のトップリーグを担当する審判員が在籍しており、その経験を伝えながら底辺拡大と次世代のトップレフェリーの育成強化を図っている。

<日 程> 2018年7月21日(土)

<場 所> 流通経済大学サッカー場(プラクティカルトレーニング)
竜ヶ崎第一高等学校(座学)

<参加者> 茨城県審判員、審判インストラクター 24名

【プラクティカルトレーニング】

① セットプレーからの事象への対応

(ペナルティーエリア周辺の事象)

主審のポジション移動、正しい判定の見極め、
副審との協力

⇒ペナルティーエリア周辺の事象を正しく見極める
ためにポジション修正をする。

(クリアボールをアタッカーがシュート)

オフサイドポジションに残っている攻撃側競技者が
ゴールキーパーの視野を遮ったか否かの見極め

⇒主審もオフサイドについての意識を持って判定する。
事象に疑義が生じた場合は副審と協議する。



主審/副審が得られる情報は何か? 必要な情報は何かを整理して必要に応じて協議する。

② 「オフサイドの見極め」

(副審サイドのタッチライン際からボールが蹴られる)

ボールの出どころとオフサイドラインの位置関係が
同時に視界に捉えるのが難しい状況での見極め

⇒立ち位置によって視野を広く確保、体の向き、目配せの
工夫などによって対応する。

エラー内容は「オンサイドをオフサイド判定した」が殆ど
(「オフサイドをオンサイド判定した」は極少)。

オフサイドの見極めは得点に直結するので、今回の
トレーニングの成果を試合で発揮してほしい。



【座学】

①競技規則の改正

競技規則の改正を整理するために実際の試合で起こり得る事象を共有



②暑熱対策

試合前・中・後に分けて水分補給などの暑熱対策を学び、個々の取り組みを共有
夏季大会中のクーリングブレイク、ウォーターブレイクの積極的使用
脳震盪など重傷者が発生したときの審判員としての対応方法

プラクティカルトレーニングでは「ゴールキーパーの視野を遮ったか否か」の見極めをテーマの一つとして行いました。競技規則を正しく適用するために協力を含めて整理できたことは、実際の試合においてもスムーズに対応できることにつながると考えています。また、オフサイドの見極めではステップや立ち位置によって視野が広がることに気付き、得点に直結しかねないオフサイドの判定の精度を高めることができました。

座学では単に競技規則の改正を確認するのではなく、実際に試合で起こりうる事象をイメージして共有することが出来ました。また、夏季大会に向けて自身の体調管理も含め、競技者の熱中症や脳震盪など安全最優先の意識を高く持って審判を担当することを再確認しました。

技術と知識を学ぶとともに日本のトップリーグで活躍するレフェリーと情報共有できたことは双方にとって良い刺激となりました。

文責：岡部拓人



会場を使用させていただきました流通経済大学サッカー部様
プラクティカルトレーニングにご協力くださいました竜ヶ崎一高サッカー部の皆様
ありがとうございました!!